

意見の内容と村の考え方及びその結果の一覧

案件名: まちなかキッチンスタジオ整備事業基本設計(案)
まちなかキッチンスタジオ建設及び農村環境改善センター利活用に関する基本構想(案)

番号	提出された意見	中札内村の考え方及び結果
1	・改善センターを少しでも多くの人に使ってもらうために、バスタッチをここの近くに持ってくれば、バスを待つ間バスからおりた後の迎えを待つ間使ってもらえると思います。 ・改善センターの一角に文化センターにあるようなカフェスペース(カウンターなどがある)があると現在文化センターでコーヒーを出している方々が使ってくれるようです。	・バスタッチの移動については、停留場スペースの確保や利用者の安全対策などの検討が必要となりますので、今後、十勝バスとの協議や村民皆様のご意見をいただきながら検討します。 ・参考とさせていただきます。改善センターは長寿命化に伴う屋根防水塗装、外壁洗浄のほか、内部改修については1階部分の壁、床等の修繕を行う予定ですが、現段階では水回りの設置を含めた改修までは考えておりません。
2	・月1回ご高齢者の昼食を保健センターで60食(高齢者50名、スタッフ10名)を2020年2月のコロナ感染まで、食事を作って提供し会食をする行事を担当していました。 キッチンスタジオ案には、会食スペースが24席程度ですが、一同に60～70席の場所が確保できればこれまで通りの行事が再開できると思います。スペースの確保は難しいかもしれませんが、防災の観点からもご検討をお願いいたします。 ・キッチンスタジオ前に「くるくる号」停留所を設置する案と伺いましたが、「夢といろ」の送迎車や物品搬入(料理の材料や器具も多く重量もあります)の車の動線、経路とバスの進路が重なり、車の前後で人も移動するので、大変危険なので、ロータリーを設ける等をご検討いただきたいと思います。 車が通行できる場所が狭く危険に感じます。村民の憩いや集いの場となるキッチンスタジオを期待しています。よろしくお願いいたします。	・隣接した改善センター1階(元の産業課及び施設課があった執務室)には、イスとテーブルを設置し、休憩・サロンスペースとしての利用を考えています。イスとテーブルは簡易に移動できるタイプとし、大人数で会食できるスペースとしての利用を想定しています。 ・多くの村民の方が利用していただくには、くるくる号の停留所は敷地内での設置を考えていますが、他の車の動線等を踏まえ、今後村民の皆様のご意見をいただきながら外構について検討します。

3	1. 外構工事について 現在の駐車場に緑地を設けるという案 ①図面を見ると施設の前庭をほとんど緑地帯としているが、現在でも何か集会等がある場合は、駐車場スペースが足りない状況です。 ②この様な緑地帯で家族連れなどが子供を遊ぶすには国道に面して危険です。 ③緑地帯の除雪は重機が入れば芝が痛むのではないのでしょうか。また、周辺の駐車場の雪を緑地帯に寄せる場合、雪山ができ景観上もよくありません。この計画では、駐車場の除雪した雪をどこに押すのでしょうか。 ④駐車場を広く使える事で、イベントなどを定期的に駐車スペースで行うなどで人が集う様子を見られるようにする(町中の賑わい)。また、今まで、商工会館前でお祭りをしていたのですが、キッチンスタジオ前の駐車場が広ければそこでできるのではないのでしょうか。今はイベントの時に、駐車場に苦慮している状況もあります。 ⑤緑地帯にするために要する経費(アスファルトをはがし、土を入れる)緑地の管理(すぐタンポポ畑になる)の削減につながる。 ⑥高齢者にとっては遠くから歩いてとは言えない。計画案では、通路も狭く、駐車スペースも分散していて、危険でもある。 ⑦何より村民が使いやすい施設であるように願います。景観は大事ですので、道路に面した所1mくらいに花壇や低木(花が咲く)を植えるくらいではどうですか。 ⑧桜の木の周辺を駐車場にしているが、計画案南側、西側の駐車スペースを桜や、コクワ棚を残して、緑地帯として広げる(花・野菜・ブルーベリーなど果樹を植えてみるなど) 2. キッチンスタジオ施設について 資材や人件費の高騰による、建設費の大幅な増加を村民が許容出来る建設費なのか立ち止まって見ることも必要。一部の人が使うだけの施設にならないよう役場としての建設後のビジョンも併せて提案して欲しい。 施設外観には優しさや、柔らかさ、かわいらしさのある設計を求めます。どこかの会社のオフィスにならないでほしいです。	1. 外構については、今後村民の皆様のご意見をいただきながら検討します。 2. 令和3年度に道の駅なかさつない「カントリープラザ」の改修を実施し、これまで加工調理室を利用されていた村民のためにも、まちなかキッチンスタジオの早急な整備が必要だと考えています。 また、キッチンスタジオに係る建築費総体では3億円を超えますが、デジタル田園都市国家構想交付金及び地方債活用により、全体金額の約1/4程度(約8千万円)に村の自己負担を抑えることが可能です。交付金等の有利な財源がある今が整備する機会と考えています。 一部の人が使うだけの施設にならないよう、村民の皆様のご意見をいただきながら検討します。 施設の外観については、多くの皆様に親しまれる色合いを検討します。
---	--	---

4	疑問点が2点ありましたので、提出させていただきます。 基本構想(案)には、経過の中で民間活力と競合しないよう配慮する必要があるとの記載がありますが、今回の構想ではこの配慮をどのような方法で解決するのでしょうか。 また、当初概算事業費より事業費が増加していますが、外構工事は補助対象外となるのでしょうか。 物価・電気料金等の高騰で苦しんでいるご家庭や企業が多くなってきている状況ですので、慎重に進めてください。	・村民の皆様には農畜産物等の起業に向けた加工品の試作や販売ができる施設としての活用を想定していますが、食堂など料理の提供については、近隣の飲食店などの民間事業者と競合しないよう慎重に進めていく考えです。 ・外構工事は補助金の対象とはなりません。 ・キッチンスタジオに係る建築費総体では3億円を超えますが、デジタル田園都市国家構想交付金及び地方債活用により、全体金額の約1/4程度(約8千万円)に村の自己負担を抑えることが可能です。交付金等の有利な財源がある今が整備する機会と考えています。
5	「老若男女が笑顔で楽しめる空間、食文化を創造する空間」のコンセプトには共感できますが、利用目的が限定的なので村民が広く利用できる空間のイメージが湧きません。 また、利用方法等の表現が抽象的で具体性に乏しいので、村民の理解を求めるには説明不足と思われます。 例えば、大人数の調理ができる場面、加工品を販売する方法や食品衛生法との整合性、既存業者との競合、加工品の陳列や保管方法等の具体的な内容の記述がなされていません。 更に、利用者数や利用料をどのくらい見込んでいるのか等の費用対効果が判断できる材料も示されていません。 設置予定場所が村の中心地であることを考えると、食事スペースの面積は拡張して食事スペースの併用も可能な多機能スペースに変更する等村民が憩える場所の確保を前提にした施設へ基本設計(案)を見直しては如何でしょうか。 見直し案には、追加工事の内容も含めて具体的な利用方法等が表現されていることを望みます。	・令和3年度に道の駅なかさつない「カントリープラザ」の改修を実施し、これまで加工調理室を利用されていた村民のためにも、まちなかキッチンスタジオの早急な整備が必要だと考えています。 ・施設の管理運営については、改善センターと一体的に活用できる施設として指定管理者制度を想定していますので、指定管理者のコスト増は想定される場所ですが、指定管理者制度を導入することで、直営よりもコストを抑えつつ多くの方に利用してもらえる様々な事業を展開したいと考えています。なお、今後の運営費及び利用方法等については、村民の皆様のご意見をいただきながら、指定管理者が決定後に、打ち合わせを実施するなかで決めていきたいと考えています。 また、キッチンスタジオに係る建築費総体では3億円を超えますが、デジタル田園都市国家構想交付金及び地方債活用により、全体金額の約1/4程度(約8千万円)に村の自己負担を抑えることが可能です。交付金等の有利な財源がある今が整備する機会と考えています。

■施設の運営、管理について

基本設計案ならびに基本構想には明記されていないですが、施設の運営管理についてはどのようにお考えでしょうか。計画が出た当初は、指定管理者制度を導入し、キッチンスタジオと改善センターを一体的に管理する予定だと聞いていましたし、その予定であるだろうと思っています。キッチンスタジオの活用方法については、基本構想(案)に記載があるとおり、幅広い用途や、様々な事業展開を可能にするためにも、できるだけ多くの人が利用し、集まってくれる施設にするためにも、どのような指定管理者が入り管理運営していくのが大変重要だと思います。パブリックキッチン構想座談会でも、器具や備品の使用方法を教えてくれる、料理の講習ができるような人が常駐してほしいという意見が出ていましたし、他の自治体の加工調理施設を視察した際にも、稼働率や利用人数が高いところには専任職員がおり、調理実習や料理教室を通じて、利用団体が増えていったというお話を伺っています。まずは建物の建設ということかもしれませんが、利用主体は村民であっても、計画や企画を立て、利用促進をはかる管理運営の主体はどこなのか、どういった指定管理者を置くのか、予算のことも含め説明していただきたいと感じます。

■外構について

1月26日に実施されました「まちづくりトーク」でも様々な意見がでしたが、施設内部の設備や配置について利用団体などと協議されてきたように、村民の意見を聴取する機会を作っていただきたいと思います。利用者にとっては、利便性が高く、安全に行き来できる施設でなければ、施設に足を運びづらくなっていくのではないのでしょうか。お子さんから高齢者の方まで多世代が交流できる施設とするなら尚更です。景観に配慮することはとても大事ですが、年間通じて多くの方が利用していただくために、利用者の目線で考えていただければと思います。徒歩での利用を促進するのであれば、周辺の駐車場と歩道の整備をまずは考えるべきだと思います。維持管理の面でも、緑地帯を天然芝にするのはいい案とは思えません。施設を管理運営する方が建物周辺の管理まで行うのであれば、容易に維持できる外構にするべきですし、イベントなどの企画にも利活用できるよう、また、建築に多額の費用をかけている分、他の費用を抑えるためにも大部分は今の舗装のままで広くあけておいて、様子を見て必要であれば段階的に進めることはできないのでしょうか。

■施設名について

こちら先日の「まちづくりトーク」で、ご意見が出ましたが、「まちなかにキッチンを作って一体どれくらいの方が利用するの?」という声を耳にします。『まちなかキッチンスタジオ』『パブリックキッチン』と施設名もまちまちに伝わっていたり、名前のせいか料理に興味ある人しか利用しないようなイメージを持たれている方も少なくありません。新築する建物は確かにキッチンや加工調理室がメインですので、間違いというわけではありませんが、改善センターも一体的に利用してもらい、より多くの方が集う場所、村民みんなの場所だとイメージできるようなネーミングができるといいなと思います。

■村民への周知・説明

上記の施設名に関しても書きましたが、まちなかキッチンスタジオの建設については、料理や調理に興味を持っている方や加工調理室を利用しておられた団体、社協や食サポ、ボランティア団体など事業の上で関わっている方以外、自分には関係ないと思っていらっしゃる方が少なくない気がします。公共施設はその利用頻度と必要性が必ずしも直結しない場合もありますが、財政が厳しい中、多額の費用をかけて建設しようとしている施設であるだけに、できるだけ多くの村民の方に、なぜ今この施設が必要なのか、今後のまちづくりにおいてどのような位置づけになるのか、村民にとってどのようなメリットがあるのか、建設の目的について丁寧に説明して理解していただく必要があると思います。座談会、村広報紙、まちづくりトーク、意見交換会、パブリックコメントなど、機会をみて情報発信や意見聴取をされていたのも分かりますが、関心がある人だけでなく、多くの村民の方に村の方針を伝え、より多くの方に利用してもらえるような施設にするために、継続的に周知・説明をする必要があると思います。

■施設の管理運営については、当初の予定どおり指定管理者制度を導入し、キッチンスタジオ及び改善センターを一体的に管理していく考えです。ご意見をいただいたとおり、器具や備品の使用方法を利用者に教えたり、料理教室や講習会を開催できる人材が必要だと考えていますので、今後の利用方法等については、村民の皆様のご意見をいただきながら、指定管理者決定後に、打ち合わせを実施するなかで決めていきたいと考えています。

■外構については、今後村民の皆様のご意見をいただきながら検討します。

■施設名については、愛称を募集するなど今後検討します。

■村民への周知については、住民説明会の開催や村広報紙への記載等により継続的な周知に努めます。

7	事業費は当初計画段階の1億7千万円から、今回の事業費概算額は大幅に増加している。 この概算額も今後増加するとしており、本体工事及び外構工事費3億8900千円からどの程度増加するのか示されていないが、増額はフリーハンドではない。 また、想定できない工事もあるとするが、基本設計を終えており、全体計画を確定させるべきである。 役場庁舎建設の際も、大幅に事業費が増加する中で、説明責任が果たされていない。 仮に建設した場合の運営主体、運営費をどの程度要するのかも示されていない。 厳しい財政状況と記述しているが、財政が厳しいのなら最小の経費で最大の効果を上げるよう最善の努力が必要になる。 加工調理室を設置するとしているが、その根拠となるニーズやこれまでのカントリープラザの調理室の利用動向も示されていない。この計画では、需要と供給のミスマッチとなる可能性が極めて高い。 この際、拙速に進めることなく立ち止まって、基本構想・基本設計を見直しすべきである。	キッチンスタジオに係る建築費総体では3億円を超えますが、デジタル田園都市国家構想交付金及び地方債の活用により、全体金額の約1/4程度(約80,000千円)に村の自己負担を抑えることが可能です。 また、現時点の試算では、外構工事(設計費含む)に係る費用を併せて165,000千円の負担となり、当初計画していた170,000千円と比べてもさほど変わらない費用で施設整備が可能となります。交付金等の有利な財源がある今が整備する機会と考えています。 施設の管理運営については、改善センターと一体的に活用できる施設として指定管理者制度を想定していますので、指定管理者のコスト増は想定されるのですが、指定管理者制度を導入することで、直営よりもコストを抑えつつ多くの方に利用してもらえる様々な事業を展開したいと考えています。なお、今後の運営費及び利用方法等については、村民の皆様のご意見をいただきながら、指定管理者が決定後に、打ち合わせを実施するなかで決めていきたいと考えています。
8	・基本構想P5の駐車場並びに緑地ゾーンを見ると、歩くスペースはどこなのか、車が走るゾーンも歩くゾーンも「動線」が同じだと、とても危険と感じる。緑地部分をもっと減らし、しっかりと歩くゾーンを確保した設計をお願いしたい。 ・緑地を多くとりたいと考えている様ですが、芝生だと冬期間除雪重機は入れなく雪捨て場、寄せ場になりそうで、景観上建物の真ん前になるが、それでも良いのか。駐車場でのイベントや商工会のお祭りの場(キッチンカー)などの場所をとってほしい。	・外構については、今後村民の皆様のご意見をいただきながら検討します。